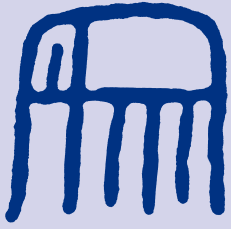


同窓會報



〒600-8601 京都市下京区下之町 57-1
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 小山 格平
TEL/FAX 075-585-2093
携帯 090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail office@kyogei-ob.jp



2024年4月 鴨川堤にて

会長退任・就任のあいさつ



あと8ヶ月を残す会長任期の中、会長退任のお願いを同窓会役員会に申し出てびっくりさせたいと思います。今年4月に入って突然に妻の体調が悪くなり、入院することになりました。意識もはっきりせず、医師からはいつでも連絡が取れるようにしておいてくださいと言われ今に至っております。この状態が続くのでは会長の仕事を続ける事は不可能と考え、退任を代表幹事に申し出ました。身勝手なお願いで申し訳ありませんがよろしくお願い致します。

私の任期中、京都芸大移転応援の作品販売展(アートオークション2023)を開催し多くの同窓生に出品して頂き多額の応援ができました。また秋の「芸大祭」には上村淳之先生から引き継いだ「象の店」を出店し同窓生の皆さんに楽しんでいただきました。

その後、コロナの拡大で皆が集まって会議をすることが出来なくなり暫く沈黙の時期がありました。ようやくコロナも沈静化し、街行く人々もマスクをせずに歩けるようになってきました。私も「芸大祭」に向けてくさあ、頑張ろうーと思った矢先にこのようなことになってしまい残念に思います。

私の身勝手なお願いを聞いていただき本当に有難うございます。役員の方々と同窓生の皆さんの元気を結集して益々同窓会を元気にしてください。ありがとうございました。

2024年7月6日

京都芸大同窓会象の会
前会長 望月 重延



この度2024年度の役員総会で会長代行を仰せ付けられました1975年度工芸科デザイン専攻卒の小山格平でございます。望月会長の残りの期間1年間だけという事で謹んでお引き受け致しました。望月会長が務められた4年間、大学は名称問題や学舎の移転など大学を取り巻く状況が大きく変化した時期でした。望月会長本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。

同窓会が主催した 移転整備基金支援の「アートオークション2023」は、同窓生皆様のお陰を持ちまして成功裡に終了出来ましたし、昨年10月には大学の移転も完了し11月には新学舎での芸大祭にも参加・出店することが出来ました。新しい地での芸大祭であり実行委員の学生さんにも慣れない点もあつて難しい開催でしたがなんとか無事に終わることが出来ました。飲酒の問題も紆余曲折がありましたが、今後も粘り強く交渉し居酒屋を復活していこうと考えております。

これからも、地域に根ざした大学、開かれた大学となっていく為には同窓生皆様の更なるお力添えも必要かと思ひます。佐野賢先生から学内の代表幹事を引き継ぎました頃より同窓会とは長い付き合いになりますが、このような大役を仰せ付かるとは思っていませんでした。私に務まるかどうか不安ではございますが、皆様のお力をお借りし、務めさせて頂きたいと思っております。同窓会としての課題も多々ある中、今後とも美術学部同窓会「象の会」の運営にご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

2024年7月6日

京都芸大同窓会象の会
会長代行 小山 格平

Head line

会長退任・就任のあいさつ.....	1	ギャラリー@KCUA2025年度「申請展」企画募集	9
同窓会象の会2024年度役員総会報告	2	五芸祭の報告.....	9
新任あいさつ.....	5	Relay Talk 象の会・いろあわせ⑩	10
「同窓生名簿2025」発行の概要	6	2023年度「京都市立芸術大学作品展」同窓会賞受賞作品	11
「京都市立芸大同窓会美術公開講座」開催のご案内.....	7	事務局だより.....	12
芸大祭「象の店」を開店.....	8	編集後記.....	12
秋の芸大祭.....	8		

同窓会象の会2024年度役員総会報告

2024年7月6日(土)16:00~17:40

「からすま京都ホテル」2階 双舞の間

出席者数 53名(出席者28名、委任状25名)

議決権総数 80名

今年は、大学が京都駅東地域に移転して初めての総会で、同窓会の新たな出発点となる総会となりました。

開会挨拶 望月重延 会長 司会 阿部 緑 副会長

議長 安井友幸 代表幹事

議事録署名人 安井代表幹事、野崎邦雄 代表幹事

第1号議案 2023年度事業報告

① 昨年1月に開催した「アートオークション」で得られた資金を4月に大学移転支援基金へ入金しました。また、同月オークション事業報告書を作成し、関係者に配布しました。

② 上村淳之先生文化勲章受章祝賀会開催

2022年11月に名誉教授、前同窓会象の会会長の上村淳之先生が文化勲章を受章されました。同窓会を始め関係者により、4月28日にホテルオークラ京都で御祝いの会を開催しました。多くの同窓生に駆けつけていただきました。

③ 役員総会の開催

7月1日、役員総会を大学の新研究棟で開催しました。提案された全議案が承認されました。

④ 「ありがとう沓掛キャンパス」イベントの開催

7月1日午後から美術・音楽両同窓会は、沓掛キャンパスを会場に43年間沓掛の地で支えられた地域住民の方々に感謝の意を表するイベントを開催しました。

⑤ 大学移転に伴う同窓会室の移転

10月1日、大学キャンパスが移転しました。同窓会室も移転し、新校舎D棟2階208号室で、音楽の真声会と共用です。以前に比べ広く明るいスペースで今後は同窓生の皆様にも集会や会議などで気楽に活用いただけます。また、10月1日に京都市、美術工芸高校、大学の主催でオープニングセレモニーが開催され同窓会も正副会長などがお祝いに出席しました。

⑥ 「同窓生名簿2025」発行準備会設置

本年2月20日、前回の名簿発行時と同じメンバーで準備会を立ち上げ、基本的に前回のスタイルを踏襲する方向で発行することを確認しました。

⑦ 芸大祭で「象の店」開店

11月4~6日、新キャンパス芸大通で「喫茶象の店」を開店しました。飲酒できる居酒屋構想は今年も諸般の事情で実現しませんでした。

⑧ 同窓会「公開美術講座」の開催と施設見学ツアー

同窓生有志の方々の要望に基づき企画しました「公開美術講座」を芸大祭の11月4~5日に開催し4氏(松尾、竹内、三木、建畠)の講演を聞きました。「芸大祭」の11月5日(日)15時から新キャンパス見学ツアーを開催し、30名が参加しました。

⑨ 2023年度の新入生から入会金に加え、終身会費納付をお願いする文書を大学から発送していただくようにしています。このことによって入学時の会費納付率が向上し同窓会の財政基盤の安定化を期待しています。

⑩ また、昨年度に移転移植予定だった「戦没者追悼碑」と記念植

樹ですが、本年3月にE棟北側高瀬川たもとに移転しました。

その他、経常事業として、卒業入学の祝い品贈呈、会報象の発行(77、78号)、芸大作品展同窓会賞授与(12人)、同窓生名簿頒布(12部)、ホームページ運営、慶弔(祝電1件)、同窓生の個展グループ展をHP上で周知(38件)。同窓会後援名義使用(1件)などがあります。

第3号議案 2024年度事業計画(案)

京都芸大が新キャンパスへ移転して1年近くが経ちます。まだ慣れない部分も多々あり課題も残されていますがスタートはしました。

2024年度の同窓会象の会事業として大きなものは、2025年度に発行予定の「同窓生名簿2025」のスタートを切ることと、5年ごと開催の「全体総会」を大学創立145周年記念総会として開催するよう準備を進めます。

また、秋の芸大祭に同窓会の居酒屋「象の店」が今年こそ開店できるよう取り組んでまいります。現役学生と卒業生の交流を育む芸大祭の伝統を引き継ぐよう頑張ります。「公開美術講座」を昨年の反省に立って今年も計画を進めていますが、大学との調整など実現性を検討し可能ならば実施する方向で考えています。アートオークション開催で休止していた「同窓会展」をアクアの企画による「申請展」に協力する形で実施する計画です。アクアを会場に同窓生(現役学生と若手の卒業生)の申請による企画展の開催で、同窓会も協力していく予定です。

今熊野から沓掛時代の記憶収集保存事業(仮称)の検討。昔の大学生活の記憶が同窓生の中に残っている間にその記憶を何とか残せる方法について検討し、できれば予備費を使って事業化していきたいと考えています。

他には例年どおりの経常事業を実施することになります。

会報象の年2回発行、入学・卒業時にお祝い品の贈呈、芸大作品展同窓会賞授与、音楽の真声会との交流、ホームページの運営、大学支援、慶弔などを実施して参ります。

第5号議案 2024年度 役員幹事の一部交代(案)

望月先生よりの同窓会象の会会長職退任の申し出ですが、先生のご事情を思えば引き続きご無理をお願いすることはできないのでは無いかと判断致しました。会則第8条の規定により、小山格平副会長(1976D)に会長代行に就任頂くよう提案いたします。また、小山副会長の後に学外幹事の鶴田憲次先生(1971油)に副会長代行に就任頂くよう提案いたします。また、それ以外に教員の定年退職による学内幹事の交代などについては議案書の通りです。

役員総会での主な意見

榊原 提案の同窓生名簿発行は、美術研究の発展からも重要な資料であり是非とも紙媒体で継続して欲しい。また美大、沓掛の記憶を保存する事業は重要と思うので取り組んで欲しい。

塚田 小山、鶴田の正副会長が「代行」となっているが何か意味があるのか?

A: 前任者の残任期間(1年)が任期という意味です。(野崎)

鶴田: 私が引き受ける条件として「代行」を希望しました。

茶谷: ホテルを会場でなく新キャンパスでの総会開催を期待していた。また若い方々が同窓会活動にもっと参加しやすい体制を望みます。

A：大学の立場から、部外者の施設利用のルールが未整備のため許可できないと聞いている。

また同窓会役員に就任頂ける方を探すのに苦勞している状況を改善するためにもその方法を検討して行きたい。（野崎）

第2号議案

決算報告書（2023年(令5)4月1日～2024年(令6)3月31日）				（単位：円）
一般会計 （収入の部）				
項 目	予 算	決 算	備 考	
前年度繰越金	19,646,868	19,646,868	2022年度より	
繰 入 金	0	0	事業基金特別会計より	
年 会 費	150,000	182,020	67件(2022年度79件)	
終 身 会 費	4,950,000	4,658,000	89件新入生含む（2024年度69件）	
入 会 金	1,650,000	1,245,000	@15,000×83件(2024年度69件)	
雑 収 入	1,000	123,710	MD／ート販売880、切手販売5,600、商品購入員声会費897,230	
利 息	132	172	ゆうちょ、京銀、中信、UFJ、みずほ、三井住友	
合 計	26,398,000	25,855,770		
（支出の部）				（単位：円）
項 目	予 算	決 算	備 考	
運営費	2,795,000	2,241,535		
事 務 費	110,000	67,379	事務消耗品、印刷費など	
通信・運搬費	100,000	75,884	電話代、郵送代など	
人 件 費	1,600,000	1,474,380	役員手当80,000、役員行動費198,000、事務局手当、通勤手当	
会 議 費	250,000	77,117	役員総会、総務委員会、各委員会など	
慶 弔 費	5,000	1,780	祝電、お悔やみなど	
ホームページ運営費	150,000	152,000	ホームページ管理、運営	
郵便加入者負担金	80,000	46,395		
備 品 費	500,000	346,600	事務椅子、収納棚、パソコン、冷蔵庫、長机パイプ椅子など	
事業費	4,433,000	2,993,289		
「ありがとう音掛キャンパス」イベント	300,000	323,613	真声会負担分 323,610	
同窓生名簿編集(助成金)	30,000	0		
会報「象」発行	2,200,000	1,456,575	9 月、2 月発行（印刷費・発送費）	
芸大祭出店	300,000	232,530	象の店・見学ツアー（支出 189,320・売上 121,790）	
美術講座	100,000	148,420	会議費・人件費 143,000	
同窓会展	1,000	0	芸大祭関連講座	
作品展 同窓会賞	270,000	245,280		
新入生御祝	170,000	145,871	賞金@ 20,000 × 12 賞状作成 5,280	
卒業生御祝	560,000	441,000	総合基礎ノート@ 990 × 142、封筒 5,291	
大学支援	500,000	0	同窓生名簿 2020 @ 3,500 × 126 冊 特別会計へ	
五芸祭補助	1,000	0		
修学支援	1,000	0		
予備費	569,000	0		
雑支出	1,000	79,020	過払い金返金	
繰出金	18,600,000	18,600,000	大学移転支援基金へ寄付 14,200,000、特別会計へ 4,400,000	
合 計	26,398,000	23,913,844		
次年度繰越金	0	1,941,926		

事業基金 特別会計
（収入の部）

項 目	予 算	決 算	備 考
繰 越 金	23,700,000	23,700,000	2022 年度より
積 立 金	4,400,000	4,400,000	一般会計より
返 済 金	800,000	800,000	名簿特別会計より
雑 収 入	0	0	
利 息	0	0	
合 計	28,900,000	28,900,000	

（支出の部）

項 目	予 算	決 算	備 考
取り崩し	0	0	
貸 出 金	0	0	
合 計	0	0	
次年度繰越金	28,900,000	28,900,000	

同窓生名簿特別会計（2020～2025 年の途中、2023 年度分）

項 目	予 算	決 算	備 考
繰 越 金	1,004,975	1,004,975	2022年度より
助 成 金	0	0	本年度なし
借 入 金	0	0	本年度なし
広 告 料	0	0	本年度なし
名簿頒布金	560,000	441,000	@3,500×126冊
名簿売上	0	48,000	@4,000×12冊
雑入・利息	3	21	利息(ゆうちょ)
合 計	1,564,978	1,493,996	

（支出の部）

項 目	予 算	決 算	備 考
編 集 印 刷	0	0	
編集委員会	0	10,000	編集委員会 行動費@2,000×5
通 信 費	1,000	0	通信費 交通費
その他経費	1,000	1,210	事務一般
返 済 金	800,000	800,000	特別会計へ(5年の4年目)
合 計	802,000	811,210	
次年度繰越金	762,978	682,786	

以上、提案の1～5号の議案は反対もなくすべて可決承認され、総会は閉会いたしました。

第4号議案

予算書(案)（2024年(令6)4月1日～2025年(令7)3月31日）				（単位：円）
一般会計 （収入の部）				
項 目	予 算	備 考		
前年度繰越金	1,941,926	2023 年度より		
繰 入 金	3,000,000	事業基金特別会計より		
年 会 費	180,000	@ 1,000 × 180 件		
終 身 会 費	4,590,000	@ 15,000 × 138 件 @ 30,000 × 84 件（新入生）		
入 会 金	1,245,000	@ 15,000 × 83 件		
雑 収 入	1,000	存目計上		
利 息	74	ゆうちょ、京銀、中信、みずほ、三井住友		
合 計	10,958,000			
（支出の部）				
項 目	予 算	備 考		
運 営 費	2,445,000			
事 務 費	80,000	事務消耗品、印刷費など		
通 信 ・ 運 搬 費	100,000	電話代、郵送代、駐車料など		
人 件 費	1,600,000	役員手当 80,000、役員行動費 200,000、事務局手当 1,050,000 アルバイト 170,000、通勤手当 100,000		
会 議 費	300,000	役員総会、総務委員会、各委員会など		
慶 弔 費	5,000	祝電、お悔やみなど		
ホームページ運営費	200,000	ホームページ管理、運営		
郵便振替口座 加入者負担金	60,000			
備 品 費	100,000	事務室備品		
事業費	6,552,000			
「ありがとう音掛キャンパス」イベント	0			
同窓生名簿編集	2,650,000	名簿発行準備		
会報「象」発行	1,800,000	印刷、発送 年 2 回		
芸大祭	300,000	「象の店」会議費・人件費		
美術講座	250,000			
同窓会展（アーク申請展）	150,000			
作品展 同窓会賞	250,000	賞金@ 20,000 × 13 賞状作成など		
新入生御祝	150,000	総合基礎演習用ノートなど		
卒業生御祝	500,000	同窓生名簿 2020 @ 3,500 × 142 冊		
大学支援	500,000	大学への事業支援		
五芸祭補助	1,000	存目計上（当番年度のみ）		
修学支援	1,000	存目計上		
予 備 費	1,000,000			
雑 支 出	61,000	存目計上		
繰 出 金	900,000	大学移転支援基金へ寄付 14,200,000、特別会計へ 4,400,000		
合 計	10,958,000			
次年度繰越金	0			

事業基金 特別会計

（収入の部）			
項 目	予 算	備 考	
繰 越 金	28,900,000	2023 年度より	
積 立 金	900,000	一般会計より	
返 済 金	441,000	名簿特別会計より	
雑 収 入	0		
利 息	0		
合 計	30,241,000		

（支出の部）

項 目	予 算	備 考
取り崩し	0	
貸 出 金	3,000,000	名簿特別会計へ
合 計	3,000,000	
次年度繰越金	27,241,000	

同窓生名簿特別会計（2020～2025 年の途中、2023 年度分）

（収入の部）			
項 目	予 算	備 考	
繰 越 金	682,786	2023 年度より	
助 成 金	0	本年度なし	
借 入 金	3,000,000	基金特別会計より	
広 告 料	0	本年度なし	
名簿頒布金	441,000	@ 3,500 × 126 冊	
名簿売上	0		
雑入・利息	14	利息	
合 計	4,123,800		

（支出の部）

項 目	予 算	備 考
編集印刷	2,500,000	名簿制作契約手付金など
編集委員会	50,000	
通信費	1,000	存目計上
その他経費	1,000	存目計上
返済金	441,000	特別会計へ（5 年の 5 年目）
合 計	2,993,000	
次年度繰越金	1,130,800	

財産目録 (2024年3月31日現在)		(単位: 円)
流動資産	31,524,712	(前年度 44,351,843)
普通預金	三菱 UFJ 銀行	6,933,534
普通預金	三井住友銀行	186,005
普通預金	みずほ銀行	211,021
定額貯金	ゆうちょ銀行 14480-50694	2,800,000
通常貯金	ゆうちょ銀行 14480-506941	212,654
当座預金	ゆうちょ銀行 郵便振替口座	10,544,863
通常貯金	ゆうちょ銀行 名簿編集委員会	1,749,390
普通預金	京都銀行	8,258,686
普通預金	京都中央信用金庫	513,751
現金		114,808
固定資産		なし
負債		なし
正味財産	31,524,712	(前年度 44,351,843)
一般会計		1,941,926
事業基金特別会計		28,900,000
名簿特別会計		682,786

2024年5月19日

上記のとおり報告いたします。

会 計 藤本 英子 印

会 計 碓 康治 印

2024年6月2日、大学同窓会室にて監査を行い、同窓会会計帳簿、預金通帳、領収書類を精査し、この報告の通り相違ないことを確認いたしました。

会計監査 長谷川 直人 印

会計監査 水野 収 印

第5号議案 同窓会役員

名誉会員	中西 進	潮江 宏三	建畠 哲	鷺田 清一	
相談役・顧問	上村 淳之 (相談役)	中井 貞次 (顧問)	望月 重延 (顧問) ●		
名誉会長	赤松 玉女 (理事長・学長)				
名誉副会長	上田 誠 (副理事長)	川嶋 渉 (副学長)	天沼 憲 (事務局長)	森野 彰人 (美術学部長)	礪波 恵照 (美術研究科長)
	学 内		学 外		
会 長		小山 格平 (1976 (昭 51) D) ●			
副会長		鶴田 憲次 (1971 (昭 46) 洋) ●	出井 豊二 (1973 (昭 48) D)	阿部 緑 (1983 (昭 58) 染)	
代表幹事	安井 友幸 (漆工)	野崎 邦雄 (1969 (昭 44) 洋)			
会 計	田中 栄子 (版画) ●	碓 康治 (1991 (平 3) 日)			
監 査	日下部雅生 (染織) ●	水野 収 (1979 (昭 54) 日)			
幹 事	谷澤紗和子 (油画) ●	三宅 五穂 (1951 (昭 26) 彫)	中井 貞次 (1954 (昭 29) 染)	上村 淳之 (1957 (昭 32) 日)	
	金氏 徹平 (彫刻)	榊原 吉郎 (1957 (昭 32) 洋)	芦田 裕昭 (1959 (昭 34) 日)	舞原 克典 (1961 (昭 36) 洋)	
	田中 栄子 (版画)	川口 凱正 (1963 (昭 38) 日)	望月 重延 (1967 (昭 42) 塗)	古川加津夫 (1970 (昭 45) D)	
	人長 果月 (構想設計)	竹内 三雄 (1972 (昭 47) 彫)	中野 順二 (1972 (昭 47) 塗)	辻 喜代治 (1973 (昭 48) 塗)	
	滝口 洋子 (総合デザイン)	佐藤 敬二 (1974 (昭 49) D)	岩間 香 (1977 (昭 52) 日)	酒井 雅子 (1978 (昭 53) 洋)	
	高井 節子 (デザイン B)	塚田 章 (1979 (昭 54) D)	松尾 恵 (1980 (昭 55) 染)	藤本 英子 (1982 (昭 57) D)	
	長谷川江利子 (PD) ●	松本 陽子 (1982 (昭 57) 版)	東田 幸治 (1983 (昭 58) 油)	長谷川直人 (1983 (昭 58) 陶)	
	西條 茜 (陶磁器) ●	児玉 靖枝 (1984 (昭 59) 油)	村岡 幸信 (1985 (昭 60) 日)	國松 万琴 (1985 (昭 60) 陶)	
	田島 達也 (芸術学)	河原 有伽 (1986 (昭 61) 版)	茶谷 文子 (1986 (昭 61) P D)	谷本 天志 (1989 (平 1) 油)	
	飯田 真人 (教職)	安藤 吉準 (1989 (平 1) 構)	辻野 宗一 (1990 (平 2) 日)	新田 恭子 (1990 (平 2) 染)	
	正垣 雅子 (日本画) ●	安井 健二 (1992 (平 4) V D)	福岡 崇 (1994 (平 6) P D)	吉岡 佐知 (1995 (平 7) 日)	
		高橋 誠吾 (1996 (平 8) PD) ●	新道 牧人 (1997 (平 9) 彫)	福本 双紅 (1997 (平 9) 陶)	
		新道 尚美 (1998 (平 10) 陶)	川越 里美 (1998 (平 10) 陶)	北里美絵子 (1998 (平 10) 染)	
		黒川 彰宣 (1999 (平 11) 彫)	徳永 杏子 (1999 (平 11) V D)	小川久美子 (1999 (平 11) 染)	
		関林 宏祐 (2001 (平 13) 日)	谷口 晋也 (2001 (平 13) 陶)	諫山 恵実 (2003 (平 15) 日) ●	
		吉岡 千尋 (2004 (平 16) 油)	久門 剛史 (2005 (平 17) 彫)	佐野 暁 (2005 (平 17) 漆)	
		古川きくみ (2007 (平 19) 環D)	公庄 直樹 (2007 (平 19) 漆)	中川 愛子 (2008 (平 20) 環D)	
		中村 潤 (2009 (平 21) 彫)	澤村 春菜 (2010 (平 22) 日)	萩原 佳奈 (2010 (平 22) 漆)	
		村井 都 (2013 (平 25) 版)	藪野 志織 (2014 (平 26) 芸)	多田 晶子 (2014 (平 26) 染)	
		山本真実江 (2015 (平 27) 陶)	田村 美有 (2016 (平 28) P D)		

●印は新任



2024年7月6日 役員総会

新任あいさつ (2024年4月)

構想設計研究室 准教授(専門 現代美術)

田中 功起 (たなか こうき)



はじめまして。ぼくの芸術実践を説明するのはなかなか難しいのですが、技法でいえば映像と執筆が主な手段になっています。長年のテーマとしているのは「共に生きるとは何か」という問いです。人々の協働を記録し、集団の力学を考察するような、そんな映像作品も作ってきました。例えば、ある職能(ピアニストであるとか、詩人であるとか)をもつ人びとを集めて協働作業に従事してもらったり、在日コリアンのバック・グラウンドのある主人

公と日系アメリカ人のルーツをもつ主人公が出会い、朝鮮人虐殺とヘイトスピーチの現場を訪ねる映画を製作したり、コロナ禍で閉鎖された宿泊施設で人類の絶滅について議論をしたり。執筆においては、育児と芸術実践をつなぐ連載をここ数年はつづけています。慣れない教員生活のなかで、自分がなにをすべきなのか分かりかねていますが、まずは学生と対話することから始めてみようと思っています。

油画研究室 准教授(専門 現代美術)

谷澤 紗和子 (たにざわ さわこ)



私の学生時代、美術科の女性専任教員は、現学長の赤松玉女先生お一人でした。あの頃はまだそういったことにとっても鈍感で、「たまたまかな」と軽く考えていました。

日本社会の構造が、女性が活躍しづらい状況にあるという自分を自分ごととして考えられるようになったのは、大学を出てしばらく経ってから。遅い気付きでした。

規模の大きな展覧会の機会、収入の良い仕事、批評、どれも、女性作家にはやんわりと遠ざけられているようでした。当時の芸術大学生の男女比は、圧倒的女性多数でしたが、男性作家が裕に過半数を占める美術雑誌の若手特集を手にして愕然としました。

自分の頑張り次第で状況は変わると思いながらも、モヤモヤとした言葉にしづらい不満と不安が蓄積されまし

た。妊娠出産育児を経験し、そのことへの思いは益々強くなり、制作する作品にもそういったテーマを織り込むことが増えました。

時を経て、女性限定の大学教員公募が行われ、増えつつある女性教員のうちの一人として、母校に勤めることになった巡り合わせをとっても光栄に思っています。これまで性別の偏りによって拘われにくい表現となっていた可能性があるものに注視することに尽力し、表現の芽を丁寧に育むための教育/研究環境を整えるべく邁進致します。

また、同窓会におかれましては、大学が教員公募について大きく舵を切ったことも鑑み、今日の民主的な価値観に沿う組織体制の変革が急務ではないかということを、同窓生の一人として、ここで申し上げさせていただきます。

総合デザイン研究室 准教授(専門 プロダクトデザイン・企画構想デザイン)

長谷川 江利子 (はせがわ えりこ)



みなさん、こんにちは!4月に総合デザインの教員として着任致しました長谷川江利子と申します。私は本学のプロダクトデザイン専攻を卒業し、企業やデザイン会社でデザイナーとして勤めて参りました。これまでプロダクトデザインを専門領域とし、空間、UI、サイン、企画構想、デザインマネジメントなど広い領域での仕事をさせて頂きました。

私が広い領域で仕事をしてきた背景とも重なりますが、近年デザインはその意味や範囲を多岐に広げ、一専門領域からのアプローチでは解決できない複合的要素を持ったプロジェクトが多くを占めています。つまりデザインの現場において、デザイナーはより多角的な視点、領域をまたいだソリューションを生み出すスキルが求められてい

ます。私は自身のこれまでの社会実装経験をもって、生徒一人一人と彼らの軸足となる専門領域を確立しながら、多角的な視点やアプローチの獲得に伴走し、全体を俯瞰して製品そのもの、プロジェクトそのものが本質的にどうあることが一番価値の高まる事かを考える力を身に着けさせる、そのような指導を行いたいと思っています。また、領域に関わらず、デザインプロセスの楽しさ、デザイナーとして社会に価値を提供する楽しさを共有していきたいです。

教職に携わるのは全くの初めてでありますが、周りの先生方に温かくご教授頂きながら日々大学でのお仕事に邁進できていることに感謝します。どうぞよろしくお願いいたします。

陶磁器研究室 講師(専門 現代美術・陶芸)

西條 茜 (さいじょう あかね)



本年から京都市立芸術大学陶磁器研究室の講師に着任しました西條茜です。

私は2008年に本校の美術学部陶磁器専攻に入学し、2014年に同専攻の大学院を修了しました。それからちょうど10年となった今年、ご縁あってまたこうして大学に戻ってくることができて大変嬉しく、そして光栄に思っております。作家として活動するなかで、

学生時代に得た同級生や後輩・先輩との繋がりは時にとても心強く感じられ、大学での制作や学びと同様、その繋がりがあったからこそ現在も活動が続けられていると感じております。

これらからまた学生や先生方、「象の会」の皆さまとの交流によって、講師として、作家として成長していけたらと思っています。

上田 順平(うえだ じゅんぺい)



私は、トキワ荘のような場所を求めて、2003年に京芸陶磁器専攻の大学院に入学しました。

修士修了後、陶磁器研究室の非常勤講師、非常勤嘱託、特任講師として、長い間京芸にいたのですが、未だにどこか、自分にヨソ者の感じがしています。

美術学部授業の特徴でもある総合基礎やテーマ演習を体験できなかったからか、専攻外や音楽学部の友人が少ないからか、ただの思い込みが続いているだけなのか。

少しさびしい気持ちもありますが、この感じが大切なかもとも思っています。

また、私の他にもヨソ者と感じている方々がたくさんいるかも知れないこと、余所、他所という場が在ること、その働きも大事だと考えています。

自分とちがう、ことなる存在が同じ場所にいる事が重要

で、その存在について、想像し、認め合い、学び、現実の社会から少しだけはなれて?ともに過ごす場と時間は、とても貴重な気がします。

20年前の僕にとってのトキワ荘では、他所者の僕を快く?受け入れてくれて、内部進学 of 友人たち、同じように他所から来た友人たちと切磋琢磨しながら、専攻内外の後輩、同級生、先輩、先生方から、たくさんの事を教わりました。

査掛にて、学生時代に出会った友人や、教員として学生さんたちと共有した非常に濃密な時間を、今、眼の前にいる学生さんたちが、同じように、それ以上に、体験出来る場を継ないでいきたいと考えています。

勝手にヨソ者と感じている人間の役割を果たせるように頑張ります。

「同窓生名簿2025」発行の概要

同総会象の会は、5年ごとに同窓生名簿を発行してきています。来年2025年がその年になり、大学創立145周年記念名簿として創立記念日の7月1日に発行できるよう準備に取り組んでいます。その概要をお知らせします。

書 名 京都市立芸術大学美術学部同窓会象の会「同窓生名簿2025」

内 容 B5版 約600頁
表紙、口絵(カラー、新キャンパスと大学生活)、学制変革一覽、刊行に寄せて、祝辞、目次、
＜名簿編＞同窓生、在校生、中退者(一部)、内地委託生・留学生(一部)
＜資料編＞沿革史、現任教員、歴代校長学長など、各校旧教員、同窓会会則、同窓会役員名簿、索引、編集後記、広告

発行部数 2,000部

発行予定日 2025年7月1日

頒布価格 1冊 5,000円(送料含)

事前予約購入の場合は4,500円

*購入は同窓生一人につき1冊に限定します。

*事前予約購入方法については次回の会報、同窓会ホームページでお知らせします。

名簿掲載事項 卒業(修了)年、専攻、同窓生氏名(作家名)、住所、電話番号、勤務先など

*住所、電話、勤務先などを非掲載希望の場合はお受けいたしますが、氏名は掲載します。

*名簿掲載内容については次回の会報(2025年3月初旬発行の第80号)に掲載内容を記載した返信用ハガキを同封します。その内容を変更したい場合は訂正して返信ください。(変更の無い場合などは返信しないでください)

不明者調査 次の会報80号を送るとき、送付先不明の方々のリストを同封しますので、消息をご存じの場合は同封されている返信ハガキで連絡ください。

掲載広告募集 名簿掲載の企業団体広告を募集します。広告料は次の通りです。

B5版全面 7万円、1/2面 5万円、1/3面 4万円、

1/4面 3万円、1/8面 2万円 広告原稿は広告主が用意するを原則とします。

*同窓生の紹介で、その同窓生の氏名を広告面に入れることで1万円を割引きます。(紹介は複数名でも可ですが割引額は1万円です)

連絡先 同窓会象の会事務局



2005年以降に発行された名簿

『京都市立芸大同窓会美術公開講座』開催のご案内

2023年度に引き続き京都市立芸大同窓会美術公開講座を下記の通り開催いたしますのでご案内いたします。

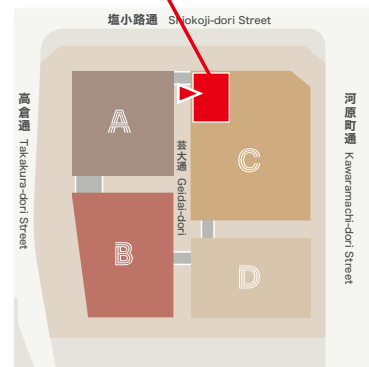
本講座は同窓生有志から提案され、2023年度は芸大祭関連催事として4講座を開催しました。2024年度は本学教員、同窓生他のご協力を得て、5つの講座とシンポジウムを3日間にわたり開催いたします。

キャンパスが昨年移転したことにより、今まで以上に大学が広く人々に親しまれ「開かれた大学」として大学が有する芸術資源を活用し、芸術・文化の発信を行うことをめざし開催するものです。

同窓生や学生の皆さん、そして多くの方々のご来聴をお願いし、ご案内申し上げます。

- 主 催：京都市立芸大同窓会象の会
- 協 力：京都市立芸術大学
- 日 時：2024年11月24日(日)、12月1日(日)、12月8日(日)
第一部：10時30分～12時(受付10時～)
第二部：14時～15時30分(受付13時30分～)
- 会 場：京都市立芸術大学構内 C棟1階 講義室1
- 受講申し込み：不要(講座及びシンポジウム当日に直接お越し下さい)
- 受講料：無料

美術公開講座
会 場
C棟1階
講義室1



▶11月24日(日) 10時30分～

テーマ：「インド宮廷絵画(日本の江戸期にあたる頃)から日本画の可能性を考える」

講師：畠中 光享／日本画家 1978年京都市立芸術大学日本画専攻卒、インド美術研究家

▶11月24日(日) 14時00分～

【シンポジウム】「伝統産業と現代工芸(これからの工芸の可能性について)」

<司会> 辻 喜代治(キュレーター)

1973年京都市立芸術大学塗装専攻卒、元成安造形大学教授

栗本 夏樹／造形作家 1985年京都市立芸術大学漆工専攻卒、京都市立芸術大学漆工専攻教授

羽田 登／染色工芸家 1964年京都市立美術大学日本画科卒

森野 泰明／陶芸作家 1958年京都市立美術大学陶磁器専攻卒、芸術院会員、文化功労者

佐藤 敬二／工芸デザイン、伝統工芸論、1974年京都市立芸術大学工芸科デザイン専攻卒、元京都市産業技術研究所研究部長、元精華大学教授

▶12月1日(日) 10時30分～

テーマ：「芸術と社会をつなぐ総合芸術学—展覧会は誰がどのように創っているのか—」

講師：田島 達也／京都市立芸術大学総合芸術学専攻教授

▶12月1日(日) 14時00分～

テーマ：「近現代の染織工芸の多様な展開—稲垣稔次郎、小合友之助から現代まで—」

講師：日下部 雅生／染色工芸作家、1988年京都市立芸術大学染織専攻卒、京都市立芸術大学染織専攻教授

▶12月8日(日) 10時30分～

テーマ：「現代陶芸の世界の多様な展開—富本憲吉、八木一夫から現代まで—」

講師：森野 彰人／陶芸作家、京都市立芸術大学陶磁器専攻教授、美術学部長、芸術資源研究センター所長

▶12月8日(日) 14時00分～

テーマ：「京都市立芸大に於けるビジュアルデザイン教育の原点—上野リチ・リックスの教育と業績—」

講師：池田 祐子／三菱一号館美術館長、前京都国立近代美術館副館長・学芸課長

コメンテーター：木村 英輝／1965年京都市立美術大学工芸科デザイン専攻卒、ペインター

芸大祭「象の店」を開店

今秋の芸大祭、11月1日(金)～3日(日)の3日間
同窓会「象の店」出店の予定 ご来店をお待ちしています
＝ G棟・講義室13を<御休み処>に＝

芸大祭に同窓会が居酒屋象の店を出店するようになり何年経ったでしょうか？

「象の店」は、同窓生の憩い・集いの場としての役割を果たして参りました。しかしここ数年芸大祭での飲酒事故や、多くの大学において大学祭禁酒の方向となり、「象の店」も不本意ながらティーカフェ「象の店」に変えて出店してきました。

しかし今年は大学の理解と協力が得られ、芸大祭実行委員会が管轄するエリア外の講義室(G棟)を同窓会が利用できるようになりました。同窓会はその講義室を「象の店・御休み処」として開店し、従来の居酒屋「象の店」の雰囲気を取り戻したいと願っています。まだ具体的な計画はできていませんが、飲み物(紅茶・ソフトドリンク・ノンアルビールなど)や乾きもの(あられ、菓子パン、サンドイッチなど)の軽飲食を提供(有料)し歓談交流の場を考えています。

具体的プランは今後、芸大祭実行委員会や大学と調整しながら詳細を決めて参ります。決まりましたら同窓会HPでお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。

また芸大祭は全面禁酒となりますので、飲酒された方が芸大祭模擬店へ立ち入ることはできません。D棟2階の「同窓会室」を見学されたい場合は、当日「象の店」のスタッフにお伝えくださ

い。<D棟2階は学生一般立ち入り禁止地域>

同窓生のみならず、教職員、地域・市民の方々に始め多くの方々にご来店いただき、「象の店」が新しいキャンパスの交流の場に育っていくよう願っています。



同窓会室
大学D棟2階 208号室
☎ 075-585-2093

同窓会象の店・御休み処
大学G棟1階
講義室13

秋の芸大祭

昨年度は移転の不安があった中でしたが、なんとか開催にまでこぎつけ、崇仁地区にて新しいスタートを切ることができました。たくさんの方々の協力のもと、本年度も11月1日～3日までの計3日間、崇仁キャンパスにて芸祭を開催いたします。

今年の芸祭のメインテーマは「イドバタ大会議」です。移転に伴い様々な思いが行き交う中、開かれた大学として昨年度移転してきた本学。ゆるやかな関係性の象徴である井戸端会議というワードを取り上げました。芸祭が新たな井戸端的なコミュニティとなり、このお祭りを通じて大学内外の多様な人々が関わっていったらという願いも込められております。

崇仁地区に移転してきてはや1年がたとうとしています。新たな場所、新たな考え、新たな人たちを私たちは目の当たりにし、日々制作・練習に励んでいます。時間の流れ方も変わっていき、かつての沓掛校舎のような緩やかな雰囲気はなくなり、少しせわしなさを感じる場面もあります。そんな中、ふと立ち止まってあたりを見渡してみると、隣には高瀬川・鴨川が緩やかに流れていて、並木の色は季節とともに変わっていく。大学内では以前よりもさまざまな人とのさまざまな会話が生まれ学生にとって豊かな時間になっているのではないのでしょうか。

芸祭は3日間というとても短い期間ですが、そうした緩やかな会話を生み出し、地域の方がたや街ゆく人々、そして何より学生自身が学生生活の中に豊かな時間を見つけ発信できるような場所にしたいと考えております。



みなさまぜひ京都市立芸術大学芸祭「イドバタ大会議」にお越しください。学生一同お待ちしております。

芸祭長 木村健太郎

ギャラリー@KCUA2025年度「申請展」企画募集

作品募集期間2024年9月1日～29日

2023年10月の大学移転に伴い、サテライト施設であったギャラリー@KCUAも学内附属施設として新キャンパス内に設置されました。これを機に従来の「同窓会展」のあり方を見直し、同窓会員を対象として企画を公募する「申請展」を、2024年度後期から同窓会の協力事業として実施することになりました。

2024年度後期の「申請展」として、以下の3企画が採択されました。

- ・「Dessine-Moi Un Mouton ～羊の絵を描いてよ～ 宇宙用の絵画たち」(申請者：和田真由子)
会期：2025年1月11日(土)～2月11日(火・祝)
- ・「『半透明の美学』と現代の絵画(仮)」(申請者：西原彩香)
会期：2025年1月11日(土)～2月11日(火・祝)
- ・「レガシー・プリントアーカイブ」(申請者：吉岡俊直)
会期：2025年3月18日(火)～4月6日(日)

また、2025年度に京都市立芸術大学ギャラリー@KCUAで実施する「申請展」の企画を右記のとおり募集します。



新キャンパス内のKCUA展示室 撮影 来田 猛

●**対象(申請者)**：京都市立芸術大学卒業・修了生・教職員・在学生
(申請者以外の出展者等企画関係者に上記以外の者を含むことは可)
※ただし、2021年度から2024年度申請展に自ら申請した企画が採択された者を除く

●**日程1**：2025年7月5日(土)～8月3日(日)
※搬入6月30日(月)～7月4日(金)／搬出8月4日(月)～6日(水)

●**日程2**：2025年8月17日(日)～9月15日(月・祝)
※搬入8月10日(日)～14日(木)／搬出9月16日(火)～18日(木)

日程1、2ともに企画枠 A・Bそれぞれ1件ずつの採択となります。
申請方法の詳細をギャラリー@KCUAウェブサイト
(<https://gallery.kcu.ac.jp>)にてご確認のうえ、メールまたは郵送にて応募してください。

●**申請受付期間**：2024年9月1日(日)～9月29日(日)17:00(必着)

●**申請先**：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
「2025年度申請展募集」係

●**メール**：gallery@kcu.ac.jp

●**郵送先**：〒600-8601 京都府京都市下京区下之町57-1
京都市立芸術大学C棟1・2階
京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA
(電話：075-585-2010)

●**審査結果の通知について**：

申請企画は京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA企画・申請展部会、同運営委員会で審査のうえ、2024年11月中旬に採択・不採択の結果を通知予定です。例年、大学の附属施設である@KCUAでこそ実施可能な実験精神に溢れた企画や、若手作家による意欲的な企画などが優先して採択されています。

五芸祭の報告

日程 令和6年5月24日(金)～5月26日(日)

会場 金沢美術工芸大学

- | | |
|-----------|-----------------|
| (1)総合優勝 | 金沢美術工芸大学 |
| (2)各種目優勝校 | バスケットボール 東京藝術大学 |
| | サッカー 金沢美術工芸大学 |
| | バレーボール 金沢美術工芸大学 |
| | バドミントン 京都市立芸術大学 |
| | 剣道 京都市立芸術大学 |

金沢の地で開催となった今年の五芸祭。その準備期間の初期は、能登地震が発生し、その痕跡が色濃く残った状態の中でのものでした。当然、実行委員の中で開催の是非が問われる事態にまでなりましたが、現地の方々からの賛同が後を押し、最終的に開催までこぎつけることが出来ました。実際に五芸祭に現地の方々が赴き、アートマーケットや、展示、演奏会などの企画を楽しんでいる姿を見て、非常に安心したのを覚えています。

今回の五芸祭で京芸が最も存在感を放ったのは、開会式のファンファーレです。京芸音楽科所属の5人が見事な演奏を見せ、五芸祭の彩りあるスタートを切ってくれました。

競技大会でも京芸の学生が優秀な成績を収め、他大学との交流を深めました。バスケットボール部では仮装大会という今回が初



めての試みとなるイベントも開催され、各大学が愉快的仮装を持ち寄り、競技大会に芸術という分野が花を咲かせました。

実行委員長をして良かったと思う1番の要因は、周りの人の頑張りをきちんと把握できたことです。自分がどれだけ周りに助けられて、どれほどの人のおかげで五芸祭が開催できたかを身をもって実感できたことが何よりもいい経験となりました。

今後も五芸祭の盛り上がりが末永く続いていくことを心より祈っております。

2024年度五芸祭実行委員長 島津はるな(美術科2回生)



象の会・いろあわせ

同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーです。懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。

さい か みちひろ
雑賀 通浩

2014年（平26）彫刻専攻 修了

地方学芸員のドーナツ呪文攻略法

「なぜ理解できない美しいと思えない作品があるんですか？」

この呪文で気がつくと思えない作品があるんですか？
真ん中に一人で立っていました。平野から見る風景は大きすぎて切り取るには相応の技術がいるのだと思います。私にはできません。どうしたらさりげなく絵を描けるのでしょうか？今ではとっても不自然に思います。



室町かそこら辺だったと思います。袈裟を着て数珠と杖を持って数多い妖怪を退治する旅を続けていました。いつの間にか風景が変わって、ドーナツ屋さんへ、きらびやかなドーナツを前に家族で絶望したのを覚えています。こんなにたくさんさんのドーナツをどうやって食べ切れればいいのかろう

戦場はここにありますが、神様が死んで、
国家・資本・法・農耕畜産・気候変動その搾りかすに文化財がちょこんと展示してあります。まるでプロパガンダまるで国家のイデオロギー

みんなで守らねばなりません...？我々の生きた証なのだから...？

平野では夜八時でも太陽が沈まないので風力発電のプロペラが回っているのを眺めていました。（平野なので隣の国の太陽まで見えてしまうのか...いっそ風景と同化したい...）ただ風景も時間と共に変わるので同化してもすぐに別の場所にワープしてしまう。京都から福井に物理的にワープしたように、僧侶からドーナツの消費者に時間的にワープしたように、とすれば同化など無意味です。

あの呪文に打ち勝つにはあえてこう答えましょう。

「そんなの楽しいからに決まってるじゃないですか！あつあと金儲け、ドーナツと一緒に。」



次号に紹介される方は、
なか がわ りょうじ
中川 亮二さん

2020年（令2）彫刻専攻 修了

おかざき ひろし
岡崎 洋

1972年（昭47）日本画専攻卒業

25歳の時、中学高校の教師を辞めて、インドへ放浪の旅に出発した。一年半の予定でインド・スリランカ・パキスタン・ネパールを企画したが、果たせずにインド中南部とスリランカのみを巡って帰国した。帰国して、また日本での放浪が始まった。

30歳を過ぎて「岡崎君、君はインドへ旅した事があるね。つきましてはアフリカリビアに赴任してくれたまえ！」2年余りリビアミスラタで神戸製鋼の圧延工場の現場設計をした。仲間達と「帰国して工場が稼働したら皆でツアー見学に来ようヨ。」と言っていた。が、カダフィー政権はあえなく崩壊し、今も内乱状態にある。グーグルマップを見ると建屋は見えるものの稼働の気配はない。



幾年かたって、パソコンのプリンター部品メーカーに入って、ドラムカートリッジ・現像カートリッジの設計開発・製造業務をリーダーとして行う。トップ企業に採用されて、タイ・ベトナム・中国に組立工場を進出させる。そのうち東京営業所へ行き、メーカーへ折衝して開発した商品を生込み、最高の売上・利益を更新した。しかし、私は精神的に行き詰ってしまった。社長からは、「君には期待している。もう少し頑張ってくれたまえ。」と言われたが、しかし本社へ一人戻り自分で机を置き、また開発設計の仕事に戻った。

60歳定年に辞職したが...再び 後期高齢者の今も元の会社で週に2~3回出勤している。また、週末3日は農業ボランティアとして米づくり・野菜作り・ミツバチの世話・竹林整備をしている。

波乱万丈 または 平々凡々 か？



プロセスユニット（ドラムユニット）



次号に紹介される方は、
たか み ひろし
高見 博さん

1973年（昭48）日本画専攻卒業

2023年度 「京都市立芸術大学作品展」同窓会賞受賞作品 (12点)

会期＝2024年2月7日～11日 会場＝京都市立芸術大学



選んでこの世に生まれてきたの
福西 里美
美術研究科 美術専攻(日本画) 修士2回生



ただ触れただけ
市田 優奈
美術学部 美術科 油画専攻 4回生



塑変音調
LIN PEICHAO
美術研究科 美術専攻(彫刻) 修士2回生



two side of...
棟 光里
美術研究科 美術専攻(構想設計) 修士2回生



間 V
吴 雨吉
美術研究科 美術専攻(版画) 修士2回生



DESIGNARE OF DRIFTWOOD 流木のデッサン
古草 舞也子
美術研究科 デザイン専攻(ビジュアル・デザイン) 2回生



Object △ / Object ◇
小池 新
美術学部 デザイン科 環境デザイン専攻 4回生



游風
湯澤 茜
美術学部 工芸科 陶磁器専攻 4回生



餞-hanamuke-
村田 雅
美術学部 デザイン科 プロダクト・デザイン 4回生



木は感受する
山本 悠葵
美術研究科 工芸専攻(漆工) 2回生



まちがい少女は、籠城できたら街へゆく
藤井 凜胡
美術学部 工芸科 染織専攻 4回生



3D アーカイブの創造的活用
～京都市立芸術大学・沓掛キャンパスを対象として～
大三 敏秀
美術学部 総合芸術学科 総合芸術学専攻 4回生

- 大学移転からこの10月で1年となり、交通アクセスはすこぶる良くなったと実感します。しかし、「購買」や「学食」がまだ未整備でチグハグ感が否めません。今後整備されるものと期待します。
- 同窓会室も昨年移転(D棟2階208号)しました。沓掛学舎に比べ広く明るくなりました。10~20人ほどの会議・集会は可能ですので利用ください。(事前の申し込み必要)
同窓会室は当面、火曜・金曜日の10時頃~17時まで開けていますのでお立ち寄りください。



写真は「戦没者追悼碑」と「記念植樹」

- 沓掛キャンパスにあった「戦没者追悼碑」と「記念植樹」が昨年8月末に新キャンパスE棟北側高瀬川畔に移転を終えました。今後も平和を願うシンボルとして大切に護って参ります。
- 大学は、キャンパス移転にあたって教育研究施設・設備充実のため「移転整備基金」協力をお願いを2020年から、同窓生を始め多くの企業団体などに広くお願いして参りました。おかげさまで目標額15億円を超える金額が集まり2024年3月末で募金活動を終了したとの報告を受けました。この間の赤松学長を始め大学当局の努力と成果に謝意と敬意を表します。

次の場合は、事務局までご連絡ください

● 同窓会後援名義使用

同窓会費を納入されている会員が主宰する作品展など(個展、グループ展)で同窓会の後援を希望される場合。

● 展覧会の案内、情報の掲載

同窓会に送っていただいた展覧会の案内や情報はホームページや会報に掲載しています。ホームページへ掲載を希望される場合は展覧会内容、DMデータなどをメールでお送りください。

● 満80歳以上の会費免除

過去10年間、同窓会会費を連続して納入いただいていた満80歳以上の会員で会費免除を希望される場合。

● 氏名、住所、電話、FAXなどの変更時

お忘れになると会報など送付物のお届け、連絡が出来なくなりますので、郵送、FAX、メール、または同窓会ホームページの住所変更フォームからお知らせください。

編集後記

- 今号が皆様のお手元に届く頃、暑い夏から秋へバトンタッチする重陽の節句の頃でしょうか。長月は本来の夜長月が略されたものだといわれています、立秋ともなると日の入りが少しずつ早くなり、夜が長いと感じるようになりますが、まだまだ残暑が半端ではないです。
秋分の日のお彼岸を過ぎると、過ごしやすい季節の到来ですが、残暑はここまで我慢しなければならないでしょうね。
- 私が今も通勤ルートとして旧今熊野学舎があった智積院境内の小径を利用しています。55年前の学生の頃ではありますが、陶磁器専攻の登窯があった場所の近くに墓地が拡がり、彫刻科の教室へ

と続く階段があります。懐かしく思い出されるご同輩も多いかと存じます。その一帯は近年きれいに整地されて6月には紫陽花が一面に植樹されて名所となっています。秋の彼岸の頃になると一転して律儀に彼岸花が花をつけます。今年の元旦は能登地震に見舞われました、今夏も集中豪雨や線状降水帯に遭われた地域も多くありました。同窓生諸兄姉のところは大丈夫だったでしょうか?不幸にして被災された方々には謹んでお見舞い申し上げ、一日も早い復興とご息災を念じ上げます。

(編集委員長:出井豊二)